

コラム 社会の資本ということ

正木啓子

MASAKI Keiko

正会員

大阪府建築都市部理事



昨今、すっかり悪役が板についた感がある公共事業であるが、「都市基盤」あるいは「社会資本」と呼び方を変えても、その精神は、社会生活の安寧と活力をもたらすための基盤づくりにあることに変わりはない。明治・大正期の近代土木構造物が、今なお静かに力強くその役割を担っている

姿は、私たちが未来に向けた社会資本整備に取り組むべき姿勢について多くの教示を与える。

例えば、

- ①社会資本整備は悠久の大計の中に基軸をおいている。短期的に定量化できる投資効果以上に社会の活性化や経済発展など長期的持続的効果を有すること
- ②多かれ少なかれ土木構造物は生活環境に影響を及ぼす。安全確保を目的とする整備が人の安心感につながるか？逆に、安心を謳っているが本当に安全なのか。この必要十分条件を反芻すること など

今後は、土木構造物が有する時間と役割の大きさを念頭におき、社会資本としての充実を更に図ることを期待する。